



市長日記

進むICT教育

井尻小学校でICTを活用した授業を見学しました。この日、児童は情報を配信する際の注意点として、そこで使う写真や著作物の使用許可を事前に取ることを学んでいました。

令和3・4年度の2カ年、伯太中学校区の5校はICT活用教育研究指定校として実践を積み重ねてきました。令和5年度以降も市内小中学校でのICT活用を、さらに進めていきます。



▲総合的な学習の時間の授業が行われました(1月27日)。



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



紹介します
出来事を
まちな話
まちの話題や

たうんとぴっくす

TOWN TOPICS

今月の1枚



絵本の温かさや楽しさを知ってもらおうと企画された「やすぎえほんマルシェ」。絵本の読み聞かせやエプロンシアターなどで、すてきな絵本との出会いの場を提供していました。スイーツや軽食の飲食ブースなどもあり、来場者の憩いのひとときとなりました。2月12日：アルテピア



▲協定書を持つ川口代表取締役CEO(右)と田中市長(左)。

空き家対策に一役

市と株式会社クラッソーネ(所在:愛知県名古屋市)は、1月31日に空き家除却促進に係る連携協定を締結しました。同社が持つIT技術を駆使したサービスやデータを活用し、社会課題となっている空き家問題に対し、連携して解決に向けた取り組みを進めていくことになります。

川口哲平代表取締役CEOは「サービスの利用で空き家解体の意志決定につながります。市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりの実現に貢献できるよう、尽力していきます」と話していました。

2月23日に「みんなで学ぼう! SDGs」が能義交流センターで開催されました。SDGs(持続可能な開発目標)は「誰一人取り残さない」がキーワード。目標に共通点が多いことから、能義地区人権・同和教育推進協議会がイベントを主催しました。

SDGsを分かりやすく学ぶお話や体験コーナー、展示など幅広い世代に向けたイベントに。ボランティアの梶村涼太さんは「展示で、チョコだけでなくコーヒーなどフェアトレード商品が多くあるなど、知れ、勉強になりました」と話していました。



▲消しゴムスタンプを使って、自分だけのオリジナルエコバッグを作る参加者。

格差のない世界を目指して



安来の名菓をPR

▲市内のようかん製造業者の前でプレゼンテーションをする情報科学高校の生徒の皆さん。

情報科学高校生が2月27日に紅葉館で「清水羊羹」のPR用リーフレットのプレゼンテーションを行いました。文化庁100年フードに認定された「清水羊羹」。そのようかんをPRしようと、同高校の地域探究応用商品班の2年生5人がリーフレットを制作しました。リーフレットには「清水羊羹」の歴史や市内ようかん製造業者4社それぞれの味わいの特徴などを記載しています。

生徒の深田成姫さんは「リーフレットで清水羊羹の魅力が伝わると嬉しいです」と話していました。

介護職員初任者研修が島根総合福祉専門学校で開催されました。市内で急速に進む介護スタッフ不足解消のため、安来市社会福祉法人連絡会が主催。同会での開催は初めてとなります。

参加した角森康治さんは「若いころから興味があったため、定年後に介護に関わることをしたいと思っています」と話していました。

この研修では、介護職の基本となる知識・技術が習得でき、介護職でのキャリアのスタートとなるだけでなく、家族の介護などでも活用できます。



介護のプロへの第一歩

▲15人が17日間かけ130時間の研修を受講。認定試験に合格すると修了者と認定されます。

安来商工会議所が主催する、役立つ知識や情報、趣味の楽しみ方を無料で学べる「第14回得する街のゼミナール(安来まちゼミ)」が開催されました。

Billiards&Cafe ARITTOの講座では、ビリヤードでの運動と凹凸のあるマット「アダブベース」を使うフィットネスが体験できました。

「汗をかかない運動ということで参加しました」という参加者。激しく動かずとも、頭と普段動かさない筋肉を使うビリヤードに、終了時には体の内側からじんわり温まったとの感想がありました。



▲ビリヤードと健康増進のつながりについて、島根大学人間科学部と共同研究中です。

スポーツ×フィットネス



ご当地ガチャ、再登場

▲1回300円。第2弾ではシール裏面に当たりの記載があれば、安来の特産品がもらえます。

市内の観光施設、企業・農家らを紹介する「安来ガチャ」が2月2日、道の駅あらエッサと安来駅に再登場しました。前回1カ月で完売し好評だったことから、第2弾を企画。ガチャの中には働く人たちのイラストなどが描かれた43種類のシールと、Kiritoの池田佳奈さんが安来の特産品をデザインしたマスキングテープが入っています。

企画した大森ファームの大森雄介さんは「ガチャを引いてもらい、普段行かない施設へ行くきっかけになればうれしいです」と話していました。